

# 太田駅北口商店街に 新しいにぎわいを \*

太田市の玄関口である太田駅北口商店街周辺に、かつてのにぎわいを取り戻そうと有志が結束し、

昨年から始まつたキタグチタウンイベントマルシェ。

人々の新たな居場所づくりを模索する、キタグチタウン実行委員会を取材した。

## 地元の有志が結束し 地域活性化の拠点を模索

太田駅北口商店街周辺で昨年11月から始まつた市民参加型イベント、キタグチタウンイベントマルシェ。地元に活気を取り戻そうと有志たちで結成した、キタグチタウン実行委員会が主催し、太田市と太田商工会議所が後援するにぎわい創出事業だ。

「今から20年程前、太田駅周辺

の区画整理事業に伴い、バス停やタクシー乗り場が南口に移ったこと

で北口の人通りが激減し、商店街の人通りも次第に減少して

いたそうです」

説明してくれたのは、同実行委員会の委員長を務める須永和昭さんだ。かつての北口周辺には喫茶店やゲームセンター、洋品店などの店もたくさんあり、子どもから大人まで多くの人々が集まるにぎやかな場所だったという。

しかし、現在は区画整理の影響で更地になつた空き地や相次ぐ閉店のあおりを受け、人の影もまばらだ。そこで、須永さんは数年前から太田駅北口周辺の空きテナントを借りて、複数の飲食店を展開。地域活性化につなげるイベント開催への礎を築きたいと、駐車場として借り受けた市の所有地で定期的に催しを主催した。行政や太田商工会議所との信頼関係を築くためだ。

2021年夏、ようやくイベント開催の許可が得られ、6人の有志で準備をスタート。趣旨に賛同した地場の区長や店舗及び企業の経営者たちも加わり、10月に同委員会が発足した。

「昔のように子どもからお年寄りまで皆が集まり、ホットとするよ

うな居場所を提供したいと思い、

参考しました」と、長年地元で飲食店を切り盛りしている平野登紀枝さん。新型コロナウイルスの影響を受け、人々の交流する機会が減つた今だからこそ、地域の役に立ちたいとほほ笑む。

同年11月13日、第1回キタグチタウンイベントマルシェが開催。当日は焼きそばや唐揚げなどのキッchenカーキをはじめ、アクセサリーのショップなどが並び、600人近くの人出でにぎわつた。

「たくさんの方々から協力も得られ、多くの人々から感謝してくださった皆さんは本当に笑顔を見せる。しかし、一過性

のイベントではなく、太田駅北口商店街周辺の魅力を広めるには、人々を呼び込むための工夫と継続力が肝心だ。

昭和レトロな街並みと、人情味のある人々のもてなし、親子で楽しめる多彩な催しが評判となり、少しずつ来場者も増えつつある同マルシェ。メンバーは定期的に集まり、2カ月に1度の割合で開催するイベントを盛り上げるべくアイデアを出し合っている。

これまで縁のなかつた人々と出会い、地域活性化について話し合う機会が持てたのも良かったと思います」と、地元で造園業を営む橋本一雄さんは話す。生まれ育つた大切な故郷を、このまま衰退させてはいけない。そんな共通の思いを抱いた仲間たちとの出会いで、新たな交友関係が広まつたと笑みを浮かべる。

一方、イベントを開催するあたり、メンバーが活動目的に上げているのは、青少年の育成や生涯学習の応援、地場産業のピアーリなど、太田市全域へ向けた地域貢献だ。

余り過ぎた今、マルシェの来場者がイベント以外の日にも北口商店街周辺に足を運ぶようになつた。再び戻ってきた人の流れを持続可能なものにするため、仲間たちはそれぞれの立場から魅力的なまちづくりに尽力したいと意気込む。

人々の心と笑顔を紡ぐ、キタグチタウンイベントマルシェ。古き良き時代の面影が残る街並み、温かなもてなしに触れながら、家族や大切な人と楽しいひとときを過ごしてはいかがだろう。

参考しました」と、長年地元で飲食店を切り盛りしている平野登紀枝さん。新型コロナウイルスの影響を受け、人々の交流する機会が減つた今だからこそ、地域の役に立ちたいとほほ笑む。

同年11月13日、第1回キタグチタウンイベントマルシェが開催。当日は焼きそばや唐揚げなどのキッchenカーキをはじめ、アクセサリーのショップなどが並び、600人近くの人出でにぎわつた。

「たくさんの方々から協力も得られ、多くの人々から感謝してくださった皆さんは本当に笑顔を見せる。しかし、一過性

のイベントではなく、太田駅北口商店街周辺の魅力を広めるには、人々を呼び込むための工夫と継続力が肝心だ。

昭和レトロな街並みと、人情味のある人々のもてなし、親子で楽しめる多彩な催しが評判となり、少しずつ来場者も増えつつある同マルシェ。メンバーは定期的に集まり、2カ月に1度の割合で開催するイベントを盛り上げるべくアイデアを出し合っている。

これまで縁のなかつた人々と出会い、地域活性化について話し合う機会が持てたのも良かったと思います」と、地元で造園業を営む橋本一雄さんは話す。生まれ育つた大切な故郷を、このまま衰退させてはいけない。そんな共通の思いを抱いた仲間たちとの出会いで、新たな交友関係が広まつたと笑みを浮かべる。

一方、イベントを開催するあたり、メンバーが活動目的に上げているのは、青少年の育成や生涯学習の応援、地場産業のピアーリなど、太田市全域へ向けた地域貢献だ。

余り過ぎた今、マルシェの来場者がイベント以外の日にも北口商店街周辺に足を運ぶようになつた。再び戻ってきた人の流れを持続可能なものにするため、仲間たちはそれぞれの立場から魅力的なまちづくりに尽力したいと意気込む。

人々の心と笑顔を紡ぐ、キタグチタウンイベントマルシェ。古き良き時代の面影が残る街並み、温かなもてなしに触れながら、家族や大切な人と楽しいひとときを過ごしてはいかがだろう。

参考しました」と、長年地元で飲食店を切り盛りしている平野登紀枝さん。新型コロナウイルスの影響を受け、人々の交流する機会が減つた今だからこそ、地域の役に立ちたいとほほ笑む。

同年11月13日、第1回キタグチタウンイベントマルシェが開催。当日は焼きそばや唐揚げなどのキッchenカーキをはじめ、アクセサリーのショップなどが並び、600人近くの人出でにぎわつた。

「たくさんの方々から協力も得られ、多くの人々から感謝してくださった皆さんは本当に笑顔を見せる。しかし、一過性

のイベントではなく、太田駅北口商店街周辺の魅力を広めるには、人々を呼び込むための工夫と継続力が肝心だ。

昭和レトロな街並みと、人情味のある人々のもてなし、親子で楽しめる多彩な催しが評判となり、少しずつ来場者も増えつつある同マルシェ。メンバーは定期的に集まり、2カ月に1度の割合で開催するイベントを盛り上げるべくアイデアを出し合っている。

これまで縁のなかつた人々と出会い、地域活性化について話し合う機会が持てたのも良かったと思います」と、地元で造園業を営む橋本一雄さんは話す。生まれ育つた大切な故郷を、このまま衰退させてはいけない。そんな共通の思いを抱いた仲間たちとの出会いで、新たな交友関係が広まつたと笑みを浮かべる。

一方、イベントを開催するあたり、メンバーが活動目的に上げているのは、青少年の育成や生涯学習の応援、地場産業のピアーリなど、太田市全域へ向けた地域貢献だ。

余り過ぎた今、マルシェの来場者がイベント以外の日にも北口商店街周辺に足を運ぶようになつた。再び戻ってきた人の流れを持続可能なものにするため、仲間たちはそれぞれの立場から魅力的なまちづくりに尽力したいと意気込む。

人々の心と笑顔を紡ぐ、キタグチタウンイベントマルシェ。古き良き時代の面影が残る街並み、温かなもてなしに触れながら、家族や大切な人と楽しいひとときを過ごしてはいかがだろう。

参考しました」と、長年地元で飲食店を切り盛りしている平野登紀枝さん。新型コロナウイルスの影響を受け、人々の交流する機会が減つた今だからこそ、地域の役に立ちたいとほほ笑む。

同年11月13日、第1回キタグチタウンイベントマルシェが開催。当日は焼きそばや唐揚げなどのキッchenカーキをはじめ、アクセサリーのショップなどが並び、600人近くの人出でにぎわつた。

「たくさんの方々から協力も得られ、多くの人々から感謝してくださった皆さんは本当に笑顔を見せる。しかし、一過性

のイベントではなく、太田駅北口商店街周辺の魅力を広めるには、人々を呼び込むための工夫と継続力が肝心だ。

昭和レトロな街並みと、人情味のある人々のもてなし、親子で楽しめる多彩な催しが評判となり、少しずつ来場者も増えつつある同マルシェ。メンバーは定期的に集まり、2カ月に1度の割合で開催するイベントを盛り上げるべくアイデアを出し合っている。

これまで縁のなかつた人々と出会い、地域活性化について話し合う機会が持てたのも良かったと思います」と、地元で造園業を営む橋本一雄さんは話す。生まれ育つた大切な故郷を、このまま衰退させてはいけない。そんな共通の思いを抱いた仲間たちとの出会いで、新たな交友関係が広まつたと笑みを浮かべる。

一方、イベントを開催するあたり、メンバーが活動目的に上げているのは、青少年の育成や生涯学習の応援、地場産業のピアーリなど、太田市全域へ向けた地域貢献だ。

余り過ぎた今、マルシェの来場者がイベント以外の日にも北口商店街周辺に足を運ぶようになつた。再び戻ってきた人の流れを持続可能なものにするため、仲間たちはそれぞれの立場から魅力的なまちづくりに尽力したいと意気込む。

人々の心と笑顔を紡ぐ、キタグチタウンイベントマルシェ。古き良き時代の面影が残る街並み、温かなもてなしに触れながら、家族や大切な人と楽しいひとときを過ごしてはいかがだろう。

参考しました」と、長年地元で飲食店を切り盛りしている平野登紀枝さん。新型コロナウイルスの影響を受け、人々の交流する機会が減つた今だからこそ、地域の役に立ちたいとほほ笑む。

同年11月13日、第1回キタグチタウンイベントマルシェが開催。当日は焼きそばや唐揚げなどのキッchenカーキをはじめ、アクセサリーのショップなどが並び、600人近くの人出でにぎわつた。

「たくさんの方々から協力も得られ、多くの人々から感謝してくださった皆さんは本当に笑顔を見せる。しかし、一過性

のイベントではなく、太田駅北口商店街周辺の魅力を広めるには、人々を呼び込むための工夫と継続力が肝心だ。

昭和レトロな街並みと、人情味のある人々のもてなし、親子で楽しめる多彩な催しが評判となり、少しずつ来場者も増えつつある同マルシェ。メンバーは定期的に集まり、2カ月に1度の割合で開催するイベントを盛り上げるべくアイデアを出し合っている。

これまで縁のなかつた人々と出会い、地域活性化について話し合う機会が持てたのも良かったと思います」と、地元で造園業を営む橋本一雄さんは話す。生まれ育つた大切な故郷を、このまま衰退させてはいけない。そんな共通の思いを抱いた仲間たちとの出会いで、新たな交友関係が広まつたと笑みを浮かべる。

一方、イベントを開催するあたり、メンバーが活動目的に上げているのは、青少年の育成や生涯学習の応援、地場産業のピアーリなど、太田市全域へ向けた地域貢献だ。

余り過ぎた今、マルシェの来場者がイベント以外の日にも北口商店街周辺に足を運ぶようになつた。再び戻ってきた人の流れを持続可能なものにするため、仲間たちはそれぞれの立場から魅力的なまちづくりに尽力したいと意気込む。

人々の心と笑顔を紡ぐ、キタグチタウンイベントマルシェ。古き良き時代の面影が残る街並み、温かなもてなしに触れながら、家族や大切な人と楽しいひとときを過ごしてはいかがだろう。

参考しました」と、長年地元で飲食店を切り盛りしている平野登紀枝さん。新型コロナウイルスの影響を受け、人々の交流する機会が減つた今だからこそ、地域の役に立ちたいとほほ笑む。

同年11月13日、第1回キタグチタウンイベントマルシェが開催。当日は焼きそばや唐揚げなどのキッchenカーキをはじめ、アクセサリーのショップなどが並び、600人近くの人出でにぎわつた。

「たくさんの方々から協力も得られ、多くの人々から感謝してくださった皆さんは本当に笑顔を見せる。しかし、一過性

のイベントではなく、太田駅北口商店街周辺の魅力を広めるには、人々を呼び込むための工夫と継続力が肝心だ。

昭和レトロな街並みと、人情味のある人々のもてなし、親子で楽しめる多彩な催しが評判となり、少しずつ来場者も増えつつある同マルシェ。メンバーは定期的に集まり、2カ月に1度の割合で開催するイベントを盛り上げるべくアイデアを出し合っている。

これまで縁のなかつた人々と出会い、地域活性化について話し合う機会が持てたのも良かったと思います」と、地元で造園業を営む橋本一雄さんは話す。生まれ育つた大切な故郷を、このまま衰退させてはいけない。そんな共通の思いを抱いた仲間たちとの出会いで、新たな交友関係が広まつたと笑みを浮かべる。

一方、イベントを開催するあたり、メンバーが活動目的に上げているのは、青少年の育成や生涯学習の応援、地場産業のピアーリなど、太田市全域へ向けた地域貢献だ。

余り過ぎた今、マルシェの来場者がイベント以外の日にも北口商店街周辺に足を運ぶようになつた。再び戻ってきた人の流れを持続可能なものにするため、仲間たちはそれぞれの立場から魅力的なまちづくりに尽力したいと意気込む。

人々の心と笑顔を紡ぐ、キタグチタウンイベントマルシェ。古き良き時代の面影が残る街並み、温かなもてなしに触れながら、家族や大切な人と楽しいひとときを過ごしてはいかがだろう。

参考しました」と、長年地元で飲食店を切り盛りしている平野登紀枝さん。新型コロナウイルスの影響を受け、人々の交流する機会が減つた今だからこそ、地域の役に立ちたいとほほ笑む。

同年11月13日、第1回キタグチタウンイベントマルシェが開催。当日は焼きそばや唐揚げなどのキッchenカーキをはじめ、アクセサリーのショップなどが並び、600人近くの人出でにぎわつた。

「たくさんの方々から協力も得られ、多くの人々から感謝してくださった皆さんは本当に笑顔を見せる。しかし、一過性

のイベントではなく、太田駅北口商店街周辺の魅力を広めるには、人々を呼び込むための工夫と継続力が肝心だ。

昭和レトロな街並みと、人情味のある人々のもてなし、親子で楽しめる多彩な催しが評判となり、少しずつ来場者も増えつつある同マルシェ。メンバーは定期的に集まり、2カ月に1度の割合で開催するイベントを盛り上げるべくアイデアを出し合っている。

これまで縁のなかつた人々と出会い、地域活性化について話し合う機会が持てたのも良かったと思います」と、地元で造園業を営む橋本一雄さんは話す。生まれ育つた大切な故郷を、このまま衰退させてはいけない。そんな共通の思いを抱いた仲間たちとの出会いで、新たな交友関係が広まつたと笑みを浮かべる。

一方、イベントを開催するあたり、メンバーが活動目的に上げているのは、青少年の育成や生涯学習の応援、地場産業のピアーリなど、太田市全域へ向けた地域貢献だ。

余り過ぎた今、マルシェの来場者がイベント以外の日にも北口商店街周辺に足を運ぶようになつた。再び戻ってきた人の流れを持続可能なものにするため、仲間たちはそれぞれの立場から魅力的なまちづくりに尽力したいと意気込む。

人々の心と笑顔を紡ぐ、キタグチタウンイベントマルシェ。古き良き時代の面影が残る街並み、温かなもてなしに触れながら、家族や大切な人と楽しいひとときを過ごしてはいかがだろう。

参考しました」と、長年地元で飲食店を切り盛りしている平野登紀枝さん。新型コロナウイルスの影響を受け、人々の交流する機会が減つた今だからこそ、地域の役に立ちたいとほほ笑む。

同年11月13日、第1回キタグチタウンイベントマルシェが開催。当日は焼きそばや唐揚げなどのキッchenカーキをはじめ、アクセサリーのショップなどが並び、600人近くの人出でにぎわつた。

「たくさんの方々から協力も得られ、多くの人々から感謝してくださった皆さんは本当に笑顔を見せる。しかし、一過性

のイベントではなく、太田駅北口商店街周辺の魅力を広めるには、人々を呼び込むための工夫と継続力が肝心だ。

昭和レトロな街並みと、人情味のある人々のもてなし、親子で楽しめる多彩な催しが評判となり、少しずつ来場者も増えつつある同マルシェ。メンバーは定期的に集まり、2カ月に1度の割合で開催するイベントを盛り上げるべくアイデアを出し合っている。

これまで縁のなかつた人々と出会い、地域活性化について話し合う機会が持てたのも良かったと思います」と、地元で造園業を営む橋本一雄さんは話す。生まれ育つた大切な故郷を、このまま衰退させてはいけない。そんな